なめがた大使 小林光恵さん 書きおろしエッセイ

五感でキャッチ！なめがた漫遊記 第20回

持つべきものは〇〇

何年ぶりだろうか。旧友Rに会った。久しぶりに会ったならば、ひとしきり久しぶり感を互いに分かち合うようなやりとりを行うことが多いが、彼女の場合は違う。ひと月ぶりに会おうが五年ぶりに会おうが、昨日も学校で会っていたような態度で接してくる。だから私も同じように返す。〈こういうのを気のおけない関係って言うのかなあ〉なんて思いながら。

先日もRは、会うなり昨日見たドラマの話を始めた。「あれおもしろいね。次回、どうなると思う？」「知らないよ、私、見てないもん」と返すと「へえ。見ればいいのに」と。

二人でだらだらと話しているうちにR（他県出身）が、霞ケ浦の形を見たいと言い出し、スマホで地図を検索して見せながら、日本で琵琶湖の次に大きい湖なのだ、海みたいに、夕陽が湖面に映る様子だって感動的だ、などと自慢した。するとRが言った。

「へえ。そんな大きいの。じゃ、たまってる水の量も、すごいだろうね……。そうだ、その水がさ、口にできる別の何かだとしたら、何がいい？」

そうだなあ。うれしい想像が始まった。香り高いシャンパンが満ちた霞ケ浦をオレンジ色の夕陽が照らす。あるいは、フルーツ牛乳がちゃぷん、と波打つ。サングリアはどうだろう。ソーダ水もいいなあ。

そこでRが言ったのだ。

「ポン酢とか、いいんじゃない？必要なときには、そこからくんでくれば水炊きがいつでも食べられるし」

カチンときた。

「調味料はダメ！　ありえない」

そこまで言って私が黙ってしまうと、Rはニヤリとして、

「久しぶりにミツエのカチン顔を見れたよ。今日はそれを見にきたようなもんだから、成功成功。じゃ、行くわ。行方市民の皆さんの中に、ポン酢でもいいっていう人がいる、に千円」

Rはつくば駅の改札口前のスターバックスをあとにして、つくばから近くはない住まいへと帰って行った。

最近、友だちのありがたみを感じる機会が多い。持つべきものは友だちですね。

小林 光恵さん

もしも、霞ケ浦の水が口にできる別の何かだったら、の答えとしてポン酢でもいい、という方がいらしたらお知らせください。

行方市出身。つくば市二の宮在住。2025年は、自分より年上だと思っていた人が年下だと知り、驚くことの多かった年でした。
新年おめでとうございます。

市公式ホームページ内で「行方帰省メシ」連載中。
サイトはこちらから▶

地域おこし協力隊 連載コラム⑳

皆さんこんにちは。地域おこし協力隊の高木です。

前回、市報行方10月号で私が担当した記事でも触れましたが、鹿島アントラーズがついに優勝しましたね！サイコーです！次のシーズンが始まるまでは、その喜びを日々かみしめています。

さて、今回は私が地域おこし協力隊として着任してからの日々の業務を、少しご紹介します。

私は、行方市まちづくり推進機構でふるさと納税に関する業務を担当しています。主な仕事は、事業者の方と相談しながら、返礼品の内容を整えたり、各種手続きの対応をしたりと、裏方として市の魅力づくりを支えることです。

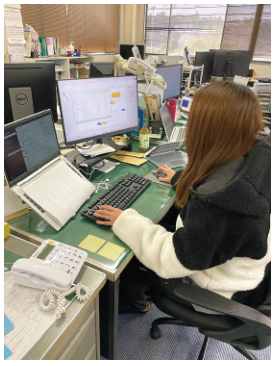
「うちの商品を返礼品にしてみたい」という事業者の方は、ぜひ私までお声掛けください。インスタグラムでも情報を発信していますので、フォローしていただけるとうれしいです。今年は返礼品や事業者の方の紹介など、もっと分かりやすく楽しく発信できるよう頑張ります。

▲高木 桂子 隊員

【令和7年4月1日～現職】
観光資源の再発見や開発、市の魅力の情報発信、特産品の販売や地域資源を生かしたまちづくりに取り組んでいます。

▲ 鹿島神宮へ必勝祈願に行ってました

▲ アントラーズが優勝した瞬間



▲ 事業者からの申請の対応などをしています

@NAMECHOKU

▲インスタグラムはこちらから